



# Design

～ 距離を保ちましょう～



発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

Design号外60号です。令和2年度の振り返りと、約6年間、地域包括ケア病棟“彩り”に携わってくれた中野SWからのコメントを掲載しています。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

## 令和2年度を振り返ります

### ～ ウィズコロナの1年となりました～

平素は地域包括ケア病棟“彩り”に患者様をご紹介頂き、ありがとうございます。令和2年度の地域包括ケア病棟“彩り”を振り返りたいと思います。お付き合い下さい。



\*

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により、「ウィズコロナ」の1年となりました。受け入れ窓口の地域医療連携室では、地域の皆様からのご紹介の際、患者様の発熱の有無などを確認させて頂くこともありました。また、地域包括ケア病棟“彩り”では、昼食前の集団体操を対面にならないように実施したり（京都府に緊急事態制限が発令された時は、集団体操が中止となりましたが、その間も、患者さんのADLが低下しないように、病棟看護師とリハビリ科セラピストが協力してくれました）、テーブルに飛沫防止用のパネルを設置したり、ご家族との面会用にタブレット端末を用意したり、様々な取り組みを行ってくれました。そして、職員も、感染防止対策として、マスクやアイシールドの着用や手洗いを徹底しました。

第1波（今年の春）の頃は、地域包括ケア病棟“彩り”への入院相談も少なく、今後の運営をどうしようかと悩む時期もありましたが、以降は、多少の変動はあるものの、地域の皆様からの問い合わせの件数や実際にご入院される患者様も増えました。

社会は、コロナによって、テレワークやオンライン会議など、新たな生活様式が定着しつつあります。地域包括ケア病棟“彩り”の運営においても、これまでしてきたことを単に踏襲するのではなく、地域の皆様方のニーズに応じて、臨機応変に対応したいと思っています。そして、感染対策にも力を入れ、患者様に安心してご入院していただける地域包括ケア病棟“彩り”でありたいと思っています。

\*

最後になりますが、令和2年度を振り返り、心残りなことがあります。傾聴ボランティアの方々に活動して頂けなかったことです。地域包括ケア病棟“彩り”では、数年前から傾聴ボランティアの方々に活動して頂いていて、文字通り、患者さんの入院生活に“彩り”を添えて頂いていました。令和3年度は、対策を講じた上で、活動して頂けるよう検討したいと思っています。

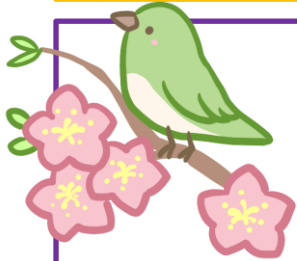
（地域医療連携室 室長 南出 弦）

## オンラインで認知症の研修会を開催しました。

～ 詳細は次号で ～



令和3年3月19日、オンラインで認知症の研修会を開催しました。参加された皆様、ありがとうございました。詳細は、次号で報告させていただきます。



## 地域包括ケア病棟“彩り”の運営に携わって

～ 地域の皆様から多くのことを学びました ～

平成27年1月から令和3年3月までの約6年間、地域包括ケア病棟の専従として担当させていただきました。前任者より引き継いだ当初は、地域包括ケア病棟に入院している患者さんは、当院急性期病棟からの受け入れがほとんどでした。そこから、地域の皆様や他医療機関の皆様からのご紹介による受け入れの強化を目標に掲げ、院内の多職種で試行錯誤を重ねながら、様々な取り込みを行ってまいりました。

まず、地域包括ケア病棟に親しみを持っていただきたいという願いを込めて、愛称をつけようということになりました。院内多職種より色々な愛称の提案が出て、最終的に、“彩り（いろどり）”に決まりました。また、他病院の地域包括ケア病棟での取り込みを学ぼうと、複数の病院を視察しました。そして、視察した内容を検討し、リハビリの取り組みとして平日のお昼前に集団体操の時間を設けました。集団体操では、患者さんがデイルームに集まり、理学療法士または作業療法士が手足、嚥下体操の指導を行っています。日中に少しでも離床時間を延ばし、運動することで、昼夜の生活リズムの改善やADL・認知機能低下予防になっています。病棟看護師の取り組みとして、月1回のレクリエーション（魚釣り、輪投げ等）と平日午後に映画鑑賞会を始めました。こちらは離床時間を延ばしADL低下予防を行うこと、また入院生活の満足度向上を目的としています。その他、在宅や他医療機関からの受け入れ促進のため、居宅介護支援事業所や医療機関を訪問し、ご利用いただけそうな方やお困りのケースが無いか直接お伺いしたり、広報誌Designを通じて受け入れさせて頂いた事例の紹介などを行いました。

現在では、地域包括ケア病棟を定期的にご利用いただく方も一定数おられ、また、地域の皆様や医療機関の皆様からのご紹介による入院の割合は4割以上となっています。これもひとえに、地域の医療・介護の専門職の皆様方からのご指導やご紹介あつての結果だと感じています。本当にありがとうございます。

今後とも地域包括ケア病棟“彩り”を、どうぞよろしくお願い致します。また、私個人としても、引き続き急性期病棟での退院支援で地域の皆様と関わらせていただきます。皆様方から様々なご意見を伺いながら、住み慣れたご自宅で末永く住み続けるためのお手伝いが出来ればと考えておりますので、宜しくお願い致します。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）